

東広島植物園では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

☆組織改編・・・植物管理室は、2019年4月より統合生命科学研究科・附属宮島自然植物実験所の所属となりました。

園内のいろいろな植物

東広島植物園では、観賞用にいくつか面白い植物を栽培展示しています。中には、食用となるものもあります。



ヘビウリ

インドや熱帯アジア原産で、観賞用として輸入されました。栄養価が高く、インドではスープ料理として食べられます。



ナタマメ

若莢で収穫し、塩漬した後、かす漬けや福神漬けなどに利用します。



世界一巨大な観賞用カボチャ「アトランティックジャイアント」



沖縄赤毛瓜

沖縄の在来種。味は淡泊で甘みがあります。

キャンパスの地衣類

地衣類は、菌類の仲間と藻類と共生しています。菌類は藻類に安定した住み家と水分を与える代わりに、藻類が光合成で作った栄養を利用して生活しています。共生している主な藻類は、緑藻カラン藻です。



ナミガタウメ/キゴケ



マツゲゴケ

地衣類は、世界で2万種、日本では1800種が知られています。大気汚染や環境の変化に弱い種類が多いため、都市部ではあまり多くの種類はみられません。キャンパスでは、いくつかの種類が見られます。ウメ/キゴケ類は、サクラ、ケヤキなどの木によく着きます。



花壇の花



コキアとサルビアを配置した理学部玄関前花壇

コロナ対策のため、今年は緑化ボランティア活動を行うことができませんでしたが、梅雨の長雨の合間に、キャンパス内の花壇に花を植えることが出来ました。花壇まわりは、事務の方や草刈り業者の方のお陰で、きれいに維持されています。



図書館前には、マリーゴールドとサルビア、カフェ前には、ミニヒマワリを植えました。ミニヒマワリは、建物によく似合っていました。

栽培実習・春コースが終了



実習の合間に、梅の実の収穫体験も行いました。

今年は、実習の開始が遅れてどうなるかと思いましたが、3密を回避しながら作業に取り組み、たくさん野菜を収穫することが出来ました。雨の日が多く作業が予定通り出来なかったり、野菜の生育が安定しなかったりといろいろありましたが、これも貴重な経験となりました。



学童保育ビオトープ

ふれあいビオトープでのザリガニ釣り体験



8月4日に学童保育の小学生9名が生きものふれあい体験を行いました。今年は、アメリカザリガニがたくさんいたこともあり、ザリガニ釣りで盛り上がりました。子どもたちは、ザリガニの生態も学びました。



女の子も上手に釣っていました。

附属幼稚園の田植え

6月10日に附属幼稚園の年長組25名が田植えを行いました。今年は、幼稚園の先生と協力しながら、すべての苗を園児で植え付けました。7月17日には年中組と一緒に苗の生育を観察し、その後は川や田んぼで自然とふれあいました。



園内の花

ランタナ *Lantana camara*



クマツツシラ科

中南米原産の常緑小低木。和名は七変化で、花の色が次第に変化することに由来する。世界の熱帯地域で広く野生化しており、問題となっている。

園内の花

ゲンパイクサギ *Clerodendrum thomsoniae*



シソ科

常緑毒性低木。南アフリカ原産。高さは4mまでなる。赤色の花と白色の萼の対比が美しく、この対比を源氏と平家に見立てた。観賞用に鉢植えなどでよく栽培される。



【お問い合わせ先】

広島大学 統合生命科学研究科
東広島植物園

TEL:082-422-7111
(内線2842)

E-mail : tshioji@hiroshima-u.ac.jp